

# 真龍小便り



真龍小学校の子ども

つながりを求める子  
かかわりを求める子  
納得を求める子



平成29年5月31日発行 No. 4

## 6月のこよみ

## 心の育成のために

校長 武田昌彦

子ども達が楽しみにしていた5月の大型連休も終了し、元気な笑顔で登校してきました。大きな事故もなく、無事に5月を迎えられるのも、保護者の皆様や地域の皆様の目配り・気配り・心配りのおかげと感謝しております。

さて、最近のニュースでは、殺伐としたものばかり流れ、心を痛めております。本校では4月28日に「1年生を迎える会」を開催しました。各学年工夫を凝らし、ゲームやスタンプなどを披露しました。一人ひとりが一生懸命、1年生に「喜んでもらおう。」「楽しんでもらいたい。」という温かい心が伝わってきました。感動でした。

そして、数日後の5月上旬。こんなお手紙を頂きました。『厚岸イオンで缶コーヒーの箱を倒し、中から缶が飛び出しました。そこに、5～6人の6年生がいて「大丈夫ですか。」と拾い、車まで運んでくれました。とても助かったのと心が温かくなりました。』という内容でした。早速、全校朝会で紹介しました。「誰か分からないけれど温かい心をありがとう。」とお礼を言わせていただきました。「真龍小の子どもたちにはしっかりとした心が育っているんだなあ。」と感心しました。同時にもっともっと温かい心を育てたいとも考えました。

そこで、子どもの心の成長について調べてみました。子どもたちが幼児期から均衡のとれた心の成長を遂げるためには、自然体験・社会体験が必要だと言われています。事実、調査によると『①生活体験が豊かな子ほど ②お手伝いをする子ほど ③自然体験が豊富な子ほど』道徳観・正義感が充実しているそうです。体験の機会を増やすためには、学校、家庭、地域社会が十分に連携し、相互に補いつつ、一体となって、明るくいきいきとした子どもたちを育てていかななくてはなりません。

学校・家庭・地域で何をしていけば良いのか、どのようにして「子どもの心の成長」という課題に向かえば良いのか、難しく考えるときりがありません。しかし、ここで大切なことは、目的意識を持ち、「子どもの心」をいかにして育んでいくのかということ、教師・親・地域が共通な課題として認識することです。心が痛くなる事件も、三者の認識の違いが原因で起きていたのではないのでしょうか。学校・家庭・地域がそれぞれ違う教育をしては、効果がありません。それぞれの立場での役割を認識して、心豊かな人間を育てていきたいと心から願っています。

日	曜	行事
1	木	
2	金	遠足予備日
3	土	
4	日	
5	月	朝会(講話) 運動会特別日課スタート
6	火	運動の日
7	水	職員会議 運動会指定席希望締切
8	木	生きがい大学
9	金	特別日課 委員会③
10	土	
11	日	
12	月	少年団グラウンド使用不可(運動会が終わるまで)
13	火	特別日課 情報館読み聞かせ 歯科検診6年 委員会④(係活動①)
14	水	全体練習① 歯科検診5年
15	木	歯科検診4年 運動会指定席抽選
16	金	特別日課 委員会⑤(係活動②) 運動会プロ・案内配布
17	土	
18	日	
19	月	特別日課 心臓検診 委員会⑥(係活動③)
20	火	第1回学校評議員会
21	水	運動会総練習
22	木	眼科検診
23	金	特別日課 運動会会場準備 街頭指導 委員会⑦(係活動④)
24	土	運動会座席取り(18:00~)
25	日	運動会
26	月	振替休業日
27	火	歯科検診3年
28	水	町研6月研究大会(真中) 歯科検診2年
29	木	歯科検診1年 保護者面談開始(~7/28まで)
30	金	特別日課 委員会⑧

# つながりを大切に

学校は地域とたくさんのつながりを持ちながら教育活動を行っています。そこで、地域と連携して行われている活動を紹介します。

## 見守り活動でつながる

5月18日、避難訓練が行われ、厚岸消防署の方が適切に避難できているかどうか見守ってくれました。さらに、4年生の消火訓練の指導もしていただきました。また、下校時には厚岸警察署の方やボランティアの方が、1, 2年生の下校を見守ってくれました。このように、地域の方に声をかけていただける機会が増えると、「守られている」という実感が深まっていくものと思います。



## 校外学習でつながる

本校3年生が、レストランの料理の種類やコンキリエの名前の由来を尋ねるなどしながら、働く方々の工夫や苦勞を知るために、コンキリエを訪問しました。子ども達の質問にたいねいに対応していただいたことで、地域とのつながりを強くすることができました。



## 本の読み聞かせでつながる

「子ども達に読書の楽しさを伝えたい！」という思いで、学校に来ていただいて本を読み聞かせてくださる団体を紹介します。

一つは、「真龍おはなし隊」という本校の保護者などで作られた団体です。おもに、朝の8:15~8:30の時間に、各学級の教室で、読み聞かせを行って来ています。

もう一つは、情報館と連携して活動している「ちいさな絵本箱」という団体です。

こちらは、厚岸町の学校を訪問して読み聞かせをしている、地域のボランティア団体です。本校では主に、2時間目と3時間目の間の、少し長めの休み時間に、読み聞かせを行ってくれます。

このような活動を学校で行ってくれることは、とっても素敵なことです。今後も継続していくためにも、ボランティアの方が気持ちよく活動できるように、理解を深めていくことが大切です。



## 児童会活動を通して

5月19日に児童総会が開かれ、各委員会の活動計画に対する質疑応答が行われました。中学校での経験が豊富な校長先生が「すごく鍛えられている。」と感心するほど、子ども同士を受け答えがしっかりと行われていました。児童会活動を通して、下級生は、真龍小学校の歴史と伝統を受け継ぐ上級生の姿を手本にしながら、つながりを強くしています。



## 慣れてきた頃が心配

今年度も自転車通学が始まって、一か月余り、自転車の運転もかなり慣れてきた頃かと思えます。しかし、人間、慣れてくるとついついスピードを出し過ぎたり、安全確認を怠ったりしてしまいがちです。

自転車を通る歩道は、自転車同士や歩行者とすれ違うこともあります。写真のように途中で歩道が狭くなっていたり、舗道上に街灯が立っていたりしている箇所もあります。かなりの勢いで自転車を運転すると、思わぬ事故につながる可能性が高まります。ですから、状況に応じてスピードを落としたり、自転車を降りたりして、安全を最優先した自転車走行を心がけてほしいと思います。

